

生ず一臺は現用にして東京電燈株式會社より電力の供給を受くる三相誘導電動機に直結せられ一臺は豫備にして蓄電池十一個の直流電源に依り運轉する發電動機なり何れも發電子軸には電流斷續器を取付け各種の信號に使用す

乾燥空氣送入機は從來米國バーレー、コムブレッサー會社製のものを使用し來りしも今回は内地石川島造船所製にして三相誘導電動機により三馬力半の空氣壓搾機を運轉し百磅の壓力に高むることを得べく壓搾せられたる空氣は鹽化カルシューム筒の乾燥裝置を経て地下ケーブルに送らるゝものとす

函樽間市外電話の開通

北海道に於ける多年の懸案たりし函樽間市外電話回線は本年四月末工事の竣工を告げたるを以て五月一日より一般の通話を開始せり開始以後に於ける通話數は豫想以上に多く一日平均約百通話時を算するの状況にして通話の成績も亦良好なりと云ふ而して本新設線路は將來旭川より釧路に出で尙進んでは根室に達する北海道に於ける電話幹線路たるべき重要線路にして電柱間の距離は二十四間平均とし長二十六尺末口六寸五分の不注入假柱を使用す今回新設のものは二百磅硬銅線一回線にして函樽間の距離約六十三里あり内線路新設五十八里添架五里大正四年五年の兩年度に亘る工事にして一日も早く公衆の宿望を満足せしめんが爲め非常なる奮闘努力をなし積雪寒氣と戰ひ銳意工事の進捗を圖りたる結果茲に開通を見るに至れり

北海道は内地と異なり樹木多く之が伐採には多數の經費と多大なる労力とを要ししかも十一月より翌年二月に至る四ヶ月間は降雪尤も烈しく此の季節に入れば建柱孔の如きは掘るに従ひて埋り測量杭の如き又は小分配を爲したる電柱の如き皆埋没せられ其所在地を發見するば

へ容易のことにあるさりしと聞く工費總額約十三萬圓なり。

各地の大火と線路被害

那霸 本年五月一日午前二時那霸局區内本町一丁目より出火し延焼二時間餘にして百餘戸を鳥有に歸せしめ罹災加入者十名の内電話機三個加入者保安器十個電柱六本を焼失したり鎮火後電報の發着は平常の三倍乃至五倍の劇増を來たしたりと云ふ

米澤市 五月二十二日午前十時三十分より米澤市代官町より出火し折柄西北の風烈しかりしかば猛火は忽ち全市に擴がり同市全戸數の三分の一強を焼盡くし各官衙銀行會社新聞社各學校等主なる建築物は殆んど焼盡され郵便局舎も亦類焼を蒙り通信機關一時全く杜絶するに至れり電信電話線路及機械の被害狀況左の如し

| | | | |
|------|----------|--------|----|
| 電話の部 | 電柱 | 約二百五十本 | 焼失 |
| | 線路亘長 | 約三里 | 同 |
| | 裸線延長 | 約六十里 | 同 |
| 電信の部 | 架空ケーブル延長 | 一里十三丁 | 同 |
| | 加入者 | 約二百名 | 同 |
| | 小市外交換機 | 三臺 | 同 |
| | 市内交換機 | 八臺 | 同 |
| 電信の部 | 電柱 | 約十五本 | 同 |
| | 線路延長 | 約十七里 | 同 |

局舎類焼を蒙りたる爲め電信電話の修理工事には多大なる困難を感じたるも舊局舎を去る約二丁の所にある活動寫真館を假局舎に借受け應急工事に極力奮闘電信電話の回復に努めたる結果電信回線は翌二十三日午前六時迄に市外電話回線は同日正午頃迄に全部開通せしむるを得たり電信の全通を見るや濫滯せる電話は一時に集中し平時同局の着